

豊かな体験活動を活かした「環境」の学習 その4

—第6学年「飛び出せ、水の〇〇隊」の実践を通して—

佐藤 健

1 はじめに

高学年における環境領域のねらいは次の通りである。

様々な角度から環境を見つめ、環境保全に向けて進んで行動しようとする事ができる。

本校における環境領域の集大成として、本実践では、次のような子ども像を設定した。

- ◎ これまでの環境の学習をもとに、自分の興味・関心に応じた活動を選択し、グループごとに活動することを通して、より広い視野から進んで環境にかかわろうとする子ども
- グループ活動に必要な交通事情を調べたり、見学先の担当の方と連絡をとったりすることで企画力を身に付けた子ども

第6学年までに太田川にかかわる学習を積み重ねてきたが、子どもたち一人ひとりの興味・関心は様々である。そこで、本校での環境の学習のまとめと発展にあたる本実践では、子どもたちが自分の興味・関心に応じて活動場所を選択できる場を設定した。また、グループ毎に探検の計画を立てることを通して、企画力の育成も試みた。

2 実践事例 — 飛び出せ、水の〇〇隊 —

(1) 単元の概要

① 飛び出せ、水の〇〇隊について

これまでの環境の学習において、本学級の児童は、太田川にかかわる様々な直接体験を積み重ねてきた。第3学年の猿猴川に始まり、太田川上流を2年間継続して探検したり、江田島「海の学習」に行ったりしてきた。また昨年度は、太田川源流域での探検活動を行い、川が生まれる豊かな環境に触れている。これらの活動を通して、児童は、上流から下流へと流れる水の概要を捉えるとともに、流下する過程で多様に变化する水の様子に触れる機会をもつことができた。児童は、「水についてもっと知りたい」「もう一度、探検に行ってみよう」という想いをもつようになっている。

「水」をテーマとした環境の学習では、身近な太田川を軸教材として扱ってきた。猿猴川での汚れた水、源流域での澄みきった水、水道をひねるとあふれ出るつくられた水等、水は、私たちの生活と切っても切り離せないものである。最終学年での環境の学習では、活動場所を限定せず、「水」をテーマに、自分たちの興味・関心に基づいた活動を設定する。自分なりの想いを大切にしながら「水」にかかわる活動を行うことで、児童は、水と自分とのかかわりに深く目を向け、行動を起こしていこうとするようになると思う。

指導にあたっては、まず、これまでの様々な探検活動を想起する場を設ける。このことから、児童は様々な探検隊や救援隊の活動に想いを巡らせようとするであろう。また、事前に活動のめあてやスケジュール等確かめたうえで、丸1日の活動を組むことで、児童の追究意欲が継続できるようにしたい。さらに、単元のまとめでは、「水の〇〇隊、報告

会」を開き、自分たちの想いを伝え合う場を設ける。これらの活動を通して、児童が身近な環境に主体的にかかわっていくことができるようにしたい。

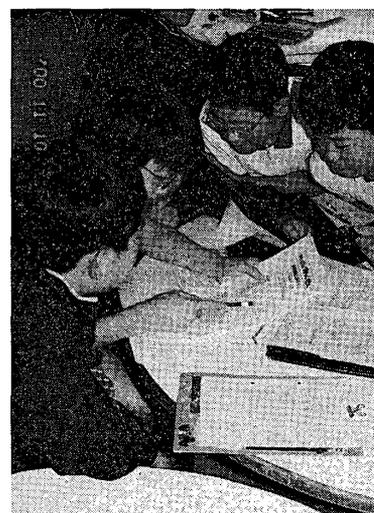
② 指導内容と計画 (全13時間)

水の〇〇隊の計画を立てよう (3時間)	いざ出発、水の〇〇隊 (6時間)	水の〇〇隊、報告会を開こう (4時間)
【オリエンテーション】 ◎探検活動の想起 ・猿猴川探検隊 ・太田川探検隊パートⅠ・Ⅱ ・江田島「海の学習」 ・太田川源流探検隊 ◎水の〇〇隊活動計画 ・メンバー ・めあて ・コース ・日程 等	【体験活動】 ◎太田川探検隊パートⅢ ・水質検査・生物調べ・ポスターづくり 等 ◎太田川中流域探検隊 ・水質検査・生物調べ・浄水場見学 等 ◎猿猴川救助隊 ・猿猴川の清掃作業・下水処理場見学 等 ◎元宇品探検隊 ・水質検査・生物調べ・清掃活動 等	【話し合い、準備】 ◎発表テーマの設定 ◎発表準備 【報告会】 ◎調査活動の結果 ◎見学会での発見 ◎清掃活動での感想 ◎太田川と かかわる人と 等

(2) 実践の概要

① 第一次「水の〇〇隊」の計画を立てよう

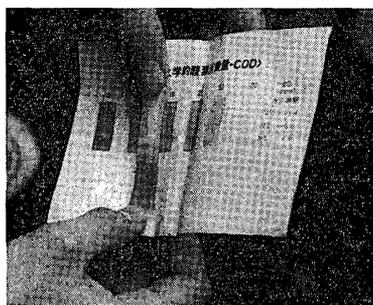
第一次は、第5学年までの探検活動の想起から始まった。活動の様子を示す資料を提示し、子どもたちの雰囲気づくりに生かせるようにした。探検グループを決める際は、「水にかかわる調査、見学を取り入れること」と「水のためにできる活動を取り入れること」を条件とした。また、児童の安全を確保したり、総合の理解を深めていただいたりするために、保護者のボランティアを募集した。保護者には、事前の話し合いにも参加していただいた。また、見学については、指導者が予め連絡はとっておいたが、細かな打ち合わせについては、直接児童に交渉に当たらせることとした。



〈企画書づくりの様子〉

② 第二次「飛び出せ、水の〇〇隊！」

「水の〇〇隊」当日、児童は企画書とそれぞれの準備物を手に集合場所に集まった。ボランティアの保護者にあいさつした後、グループ毎に目的地に向かった。今回の5グループは、次のような構成となった。



〈中流でもかなり汚れているね!〉



〈どうして、こんなにごみが…?〉



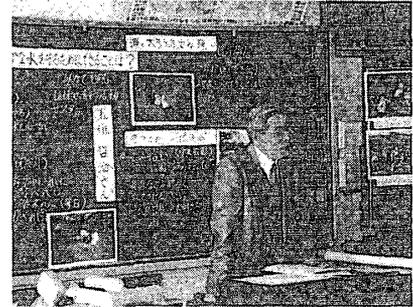
〈ここで太田川の水を管理しているんだ〉

- a : 水飲み隊 (太田川上流域 : 温井ダム見学)
- b : 太田川中流いき隊 (太田川中流域 : 取水場・浄水場見学)
- c : さわやか隊 (太田川下流域 : 東部浄化センター見学)
- d : 海の大そうさせん隊 (元宇品周辺 : 東部浄化センター見学)
- e : 飛び出せ、町中隊 (旧市内川巡り : 太田川工事事務所見学)

児童は、保護者のアドバイスを受けながらも自分たちのスケジュールをもとに、丸一日、生き生きと活動していた。

③ 第三次「水の〇〇隊」報告会を開こう

第三次は、これまでの「環境」の学習の正に集大成である。それぞれのグループの活動報告を行った後、「世紀をこえて、豊かな水を守るためにできることは？」をテーマに話し合いをもった。まず、自分たちにできること、次に、地域のみんなでできそうなことを出し合った。最後に、50年も100年も先を見越し、かき養殖業者の方と植林活動に携わっておられる、森林組合の方にお話をいただいた。



(カシの木は大きくなるまで百年はかかります)

3 実践を終えて

実践の考察を本実践の「めざす子ども像」に照らして、述べてみたい。

本実践の1つ目のねらいは、「自分の興味・関心に応じた活動を選択し、グループごとに活動することを通して、より広い視野から進んで環境にかかわろうとする子ども」の育成にあった。子どもたちは、様々な活動場所から自分の最も興味・関心のある所を意欲的に決定し、活動した。それは、活動中の子どもたちの表情から読み取ることができた。また、それぞれの見学先では、担当者の方々が丁寧に應對して下さったため、子どもたちは、様々な面から太田川の水にかかわっておられる方の生の声や姿に触れることができた。これらのことから、より広い視野から進んで環境にかかわろうとすることに、一定の成果があったと考える。

2つ目のねらいは、「企画力を身に付けた子ども」を育成することである。子どもたちは、探検隊の実施に必要な交通機関の時刻や料金を丹念に調べるなど、これまででない経験を積むことができた。また、探検後は、見学先の担当の方にお礼の手紙を全員で書いた。このような力が、将来生きて働く力の大切な一部になると捉えている。

4 おわりに

「水」とかかわった今回の活動は、実に様々な人々との出会いによって支えられていた。「水」の学習は、終結したわけではない。これからも、児童一人ひとりが「水」にこだわり続けてほしいと願っている。最後に、一連の「環境」の学習を終えた児童の感想文を紹介する。

将来、上流から河口、海が元のようにきれいになることはできるのだろうか。先生が最後に言われたように、昔は水は汚れていなかった。自然がきれいにしてくれるはん囲のごみだったからだ。今の人間に昔の生活にもどれと言うのは難しいが、それに近づくための努力と行動が大切だと思う。

自分も身近な所から節約やリサイクルなど水のためにできることを考えていきたい。

“水の探検には終わりはない”

(Y・A)